

巻 頭 言

紀要発行にあたって

仙台青葉学院短期大学学長
鈴木 一 樹

このたび本学研究紀要第11巻第1号を発行いたしましたので、皆様方のご高覧に処する次第です。

最近では、英語民間試験導入の是非をはじめとして大学入試についての話題が多く上がっています。これまでの入試の内容が詰め込み式・暗記中心の学習を助長しているとの批判を受け、思考力・読解力を重視する入試への改革が急速に進められています。しかし、ご存知の通り迷走している感は否めません。確かに思考力・読解力は重要であり、正確に暗記できた者だけが優位に立つような入試は望ましくありません。ただ、思考力・読解力というものはそれ相応の前提知識がなければ養うことはできませんし、知識が不足している人に思考力や読解力を求めるというのは本末転倒な気がします。また、自分の経験上これまでの入試問題を見ても単に暗記したことを問うものは少数であり、多くは基本的知識をもとにその場で考えなければ解けない問題だったと思います。かといってこれまでの入試のままで良いとは言いませんが、少なくとも単に暗記力を問う試験ではなかったのではないかと思います。

入試も確かに重要ですが、本学としましてはあくまでも入学してくれた学生を2年ないし3年という限られた期間でどれだけ成長させることができるかということに軸足を置きたいと考えます。

本学は、開学10年を迎え、11年目の始まりと共に現代英語学科が加わり計8学科となりました。新たな特色を持つ学科が1つ加わったことで、より広範な専門分野の研究成果を世に発信することができ喜ばしい限りです。

本紀要には看護学科3名、リハビリテーション学科2名、こども学科2名の教員による計4編の論文、報告が掲載されております。

紀要は、大学教員が世に発する貴重な研究成果であり、大学にとって何物にも代えがたい唯一無二の知的財産であります。

今後、本学紀要が学術誌としてさらに充実したものとなることを期待し、私からのご挨拶とさせていただきます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。